

Kwacha (クワチャ) はチェワ語で「夜明け」を意味します。

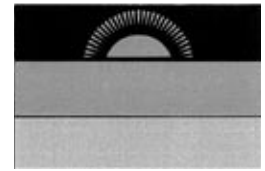
編集・発行：日本マラウイ協会
〒150-0012 東京都渋谷区広尾 4-2-24 青年海外協力協会気付
Tel. 03-3447-2921 Fax 03-5798-4269
Home Page <http://www.joca.or.jp/malaw/malawi-j.htm>
E-mail japan-malawi@mc.newweb.ne.jp

【マラウイ共和国】

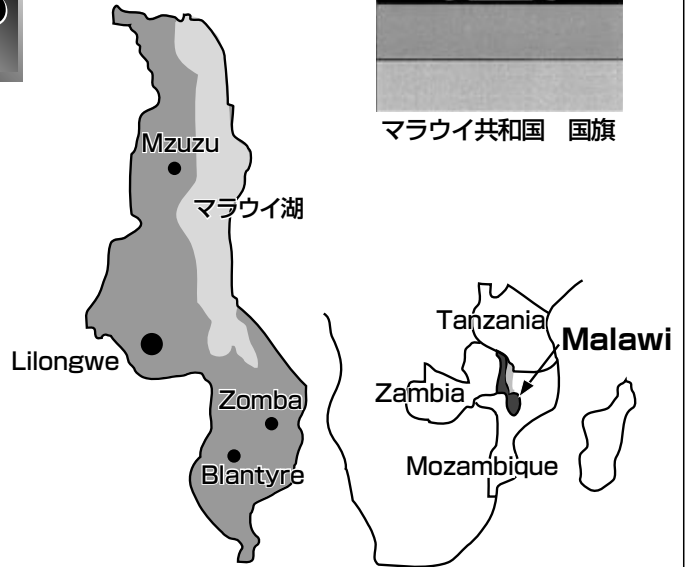
面積：118,484 平方 km (日本の約 1/3)
人口：1120 万人(2004 年世界銀行)、首都：リロングウェ
独立：1964 年 7 月 6 日、公用語：英語、チェワ語
政体：共和制、大統領：ビング・ワ・ムタリカ
為替レート：US\$1 = MK 141.958(9月5日現在)
MK 1 = 0.85018 円(9月5日現在)

【日本マラウイ協会 (Malawi Society of Japan)】

日本とマラウイ両国間の理解を深め、文化、スポーツ、経済、科学技術等の協力を通じ、相互の繁栄に寄与することを目的とする任意団体です。趣旨をご理解の上、広く各位の入会を希望します。会員数:264 人 (9月1日現在)



マラウイ共和国 国旗



ニュース 第 25 回通常総会開かれる

日本マラウイ協会の第 25 回通常総会が 2007 年 5 月 12 日(土) 13:00 から、東京・渋谷区の JICA (国際協力機構) 地球ひろば会議室で開かれた。

第 1 号議案では平成 18 年度事業報告と決算報告が行われた。活動は広報活動、文化活動、国際協力活動、組織活動の 4 分野が柱となっており、機関紙発行、グローバルフェスタ 2006 参加、マラウイ独立 42 周年記念国情セミナー/シマを食べる会(懇親会)開催など、平成 18 年度の活動とそれに伴う決算、会計監査結果が報告された。

第 2 号議案の平成 19 年度事業計画と予算案では、基本的に前年度と同様に広報活動、文化・交流活動、国際協力活動、組織活動を中心に活動を展開していくことが示された。これに関し、主なものとして以下のような意見が追加された。

- 平成 20 年 1 月頃と見込まれる在マラウイ日本大使館開設を考慮しつつ、当協会設立 25 周年(平成 20 年 2 月)を記念する事業をその前後 1 年未満の期間に行うこととし、内容について今後検討する。
 - 国際協力活動につき、第 5 回マラウイウォームハートプロジェクトには申請書締切が予定されているが柔軟に対応する。
 - シニア海外ボランティアが増える傾向にあり、彼らとの接点を意識すべき。
- 第 3 号議案の役員改選に関する件では、江上三喜子監事に代わって鈴木ともこ OG を監事に選任し、他は本人承諾を条件に再任とするよう提案された。第 1～3 号議案は質疑応答の後、議長が一同に諮ったところ満場一致で承認された。



▲総会審議の様子

イベント 第 1 回協力隊まつり

2007 年 4 月 21・22 日(土・日)の両日、東京・渋谷区の JICA 地球ひろばにて「第 1 回協力隊まつり」

が開催された。これは、2005 年 10 月に開催された「JOCV 発足 40 周年記念ボランティアフェスタ」をきっかけに高まった帰国隊員の意識を継続し、さらなるボランティア事業の啓発・広報を踏まえたボランティアの募集拡大に対し、経験者がその一翼を担うことを目的に、青年海外協力協会(JOCA)が主催者となり、独自のお祭りを開催することになったものである。

参加団体は、青年海外協力隊の国別・職種別・都県別の OB/OG 会およびシニアボランティア経験を生かす会など 28 団体で、日本マラウイ協会も参加した。



▲地球ひろば前庭の展覧テント群

当日は、地球ひろばの前庭と 3 階の体育館を会場とし、前者には主に飲食販売の団体が、後者には主に展示主体の団体がテントやブースを構えた。

日本マラウイ協会は 3 階体育館にブースを出展し、写真パネル展示、当会出版物やマラウイの民芸品、マラウイ紅茶・コーヒーの販売を行った。また、山田耕平 OB にもお出でいただき、ディマクコンダの CD 即売を、「マラウイ母の会」には手作りのチテンシバッグを販売していただき、来場者から好評を得た。

JOCA では来年以降も趣向をこらし、この「協力隊祭り」を継続していく予定である。



▲マラウイ協会の展覧ブースで

イベント 国情セミナーとシマを食べる会

日本マラウイ協会では 2007 年 7 月 7 日(土)、マラウイ独立 43 周年を記念して、国情セミナーとシマを食べる会を開催した。

国情セミナーは午後 2 時から、駐日マラウイ国大使 Mr. Roosevelt L. Gondwe が約 1 時間にわたって、最近のマラウイ国内情勢や日本との関係について講演と質疑応答を行った。



▲講演を聴く参加者(左)、講演する Gondwe 大使(右)

午後 3 時から、玄關前の物故隊員慰霊碑前に集まり、Gondwe 大使と数原会長が献花した後、元 JICA マラウイ事務所調整員の郡昭治氏より、マラウイ在任中に亡くなった 12 名の隊員の名前が読み上げられ、全員で 1 分間の黙祷を行った。



▲慰霊碑前で

その後、会場を 1 階のレストラン「カフェ・フロンティア」へ移し「シマを食べる会」を行った。まずテーブルによるマラウイ警察音楽隊のマラウイ国歌演奏の後、数原会長が独立 43 周年への祝辞を述べた。次に Gondwe 大使が、独立記念日行事を催した当会と、マラウイの各分野で活動する青年海外協力隊員および帰国後も日本とマラウイの友好親善・理解促進のために活動している当会会員に謝意を示された。続いて、チリマ参事官より大使館職員と職員家族の紹介が行われ、乾杯で会は始まった。

大使・大使館職員・家族・OB/OG らはシマを食

しながら独立記念日を祝い、懇親を深めた。また、会の後半では、マラウイの物産・民芸品などが当たるお楽しみ抽選会が行われ、当選者は歓喜に沸いた。



▲挨拶する Gondwe 大使



▲参加者全員で記念写真

イベント

国情セミナー要旨

- 日時：2007年7月7日(土) 14:00～15:00
- 場所：JICA 地球ひろば 3階セミナールーム
- 講師：駐日マラウイ国大使
H. E. Mr. Roosevelt L. Gondwe

【講演要旨】

日本マラウイ協会がマラウイの独立を祝う国情セミナーとシマを食べる会を開催していることにお礼申し上げます。私は今年で2回目の参加となります。こうして友人たちに会えることはすばらしいことです。

マラウイの経済は上向いている。経済成長率は6%、インフレ率は1桁で、金融部門も改善されつつある。以前は経済成長が止まっていたが、現在では成長が見られる。

日本政府のマラウイに対する大規模な債務削減に感謝申し上げる。マラウイ政府は、この債務を返済する代わりに、保健や教育のプログラムに予算を配分することができる。例えば、エイズ治療薬の購入や村落部の診療所の復旧などである。

2006/2007年期のとうもろこしの収穫は23%増となった。生産が320万トンで必要量の210万トンを上回った。米、キャサバなど他の主要作物も増産となった。これらによって食糧が確保された。食糧を害虫などから守り保存するために各地区にサイロが建設されつつある。食糧増産は、種子や肥料などに対する補助政策によっている。農家は、例えば3,000クワチャの肥料を補助政策により900クワチャで購入することができる。

日本政府はかんがい事業や精米機でも支援してくれており、お礼申し上げます。これらは農家の自家消費と販売の両方を助けるものである。例えばサリマ地区ではとうもろこしの製粉機や耕運機での支援もある。

日本政府は井戸掘りの無償援助事業も行っている。他の地区ではマラウイ側の自助努力で同様な事業を実施している所もあり、日本の事業を補完している。これらによって村落部においても安全な水が確保されつつある。

保健部門では、以前は16%を超えていたHIVの感染率は14%で安定している。しかしながら多くの孤児が生じており政府は彼らの授業料を支払っている。また、6,000人強の孤児を施設に収容している。日本政府は病院の混雑を緩和するために病院施設の復旧・拡張も支援している。その際、停電にそなえて太陽電池を設置している。

社会基盤施設一般については、サリマバラカ間の道路は以前はしばしば寸断されていたが、日本の援助で立派な橋梁が完成した。その他の道路も改善されつつある。これらは地区間の移動を簡単にするだけでなく農家にとっては市場への進出を助ける

ものである。一方、都市内においても先進的な道路事業が始まりつつある。

日本政府は2008年にはリロングウェに大使館を開設する予定である。このことは両国間の関係にとって非常に良いことである。今まではビザを得るためにルサカ(ザンビア)やプレトリア(南アフリカ)に行かなければならなかったがその必要もなくなる。先般、5人の日本の国会議員がマラウイを訪問した。このことも両国の関係にとって歓迎すべきことである。

現在マラウイの国会で予算審議が行われている。一部議員の与党への転籍の妥当性をめぐって訴訟も行われているが、予算成立にむけた動きは進んでおり、近々予算が成立することになる。

【質問への回答】

(1) 理数科教育

現在、セカンダリースクールの理数科教育を改善するマラウイ・日本協力プロジェクトが進行している。

(2) 戸籍制度

マラウイの戸籍は整備されておらず、食糧の配分や保健分野における薬品の配布に想定を上回る人が集まるという問題があった。選挙においてさえ問題が見られた。そのため全国の戸籍制度の法案が現在審議されている。

(3) 周辺国との関係

マラウイは周辺国と良好な関係を維持している。マラウイは南部アフリカ開発共同体(SADC)の構成国であり域内の関税引き下げや選挙の相互監視などの共通事業に取り組んでいる。その他に、東部南部アフリカ共同市場(COMESA)の構成国としても周辺国との関係は良好である。

レポート

食糧支援プロジェクト報告

日本マラウイ協会では2006年1月31日を締め切りとして食糧支援募金2005を実施した。募金額108万円は国際連合世界食糧計画WFP協会を通じ、マラウイの食糧支援に役立てることができた(KWACHA第35号にて既報)。その後当会に届いた食糧支援を旨とする募金など105,527円について、JICAマラウイ事務所に適切な寄付先の推薦を依頼したところ、平成17年度1次隊の鈴木諭隊員(エイズ対策、マウラオ・エイズ対策協会配属、任地：ムジンバ県マウラオ地区)の食糧支援活動の推薦と本人の依頼を受けた。そして昨年6月、同隊員へ送金した。今般、同隊員が本年7月に任期終了し、活動報告書が提出されたので、その要約を掲載する。

平成17年度1次隊エイズ対策 鈴木諭

1. 食糧配布

緊急的な食糧配布は2回行い、HIV陽性者39名と慢性患者12名、合計で51名がメイズ50キロ、大豆9キロ、豆3キロ、食用油1ℓを受け取った。配布時点で、すでに食糧が尽きたという対象者や非常に体が弱っている慢性患者もいた為、タイムリーな支援だったと考えている。配布した食糧のうち、メイズと豆は村人から購入し確保した。この時、配属先メンバーからの購入に優先権を与え、その代りメンバーには売上げ代金の中から会員料100クワチャ(約100円)の納入をお願いした。

食糧配布での最大の課題は、どのように受領者を選定するかであった。まず一番のポイントは、その人がHIV陽性である場合、その人がHIV陽性であることを周囲に公表しているか、或いは公表できるかであった。HIV陽性者の栄養支援を目的としている食糧配布であった



▲第2回配布時のクライアントと配属先メンバー

ため、その人が支援のメイズを貰えば、狭い地域ということもあってその人がHIVに感染していることが周囲に広まってしまうことは容易に想像できる。

実際にあるHIV陽性の女性は食糧配布を受けたいが周囲にそのことを知られるのは嫌だといって私の上司に相談していたようである。相談の結果、彼女は受領を断念したようであるが、このやりとりは、HIV/AIDSに対するスティグマや偏見が地域に確かに存在することを私に印象付けるものだった。また、このプロジェクトは、一人ひとりの栄養改善を目的としていたため、その家族にどれだけの食糧がいくかは問題とならない。しかし夫婦ともにHIV陽性で二人とも食糧を受領しているケースに対して、疑問の声が上がり理解を得るのに苦労した。最後は、受領者の選定はクライアントのケア活動を行なっているグループのリーダーからの情報と役員会の判断に一任し決定され配布が行なわれたが、受領者からは感謝の言葉を多く頂くことができ配属先の人たちも喜んでいて。私も、目標だった約50名のクライアントに食糧配布ができたことを誇りに思う。

2. 畑作り

支援金を受領後、私たちは耕作の為の物資の調達を順調に進めてきた。肥料やメイズの種を購入し、また畑の候補地を視察し2箇所を決定した。2006年10月には、畑づくりが始まり11月には種を植えることができた。

畑作りは、重労働でもあり、メンバーからどれだけのコミットメントが得られるのか不安もあったが、やる気のあるリーダーの存在もあって畑作りは順調にスタートを切った。あとは、成長を待つだけで収穫まで大きな仕事もなく、この時は安堵した。その後、定期的に畑の視察を行い2007年2月時点では以下の写真のような畑となった。



▲2007年2月時点の畑の様子

今期は雨も多く、生育は非常に順調で収穫に期待をもつことができた。この時期に合わせて、農業隊員を呼び寄せて共に畑の視察をして草刈の大切さなど、いくつかのアドバイスをもらったが、ほとんどの事はメンバーが既に知っていたようで、マラウイ人の経験の豊富さに二人で驚いたりもしていた。帰国前の5月に私は収穫作業の最初のステップを開始したとの報告を受け畑の視察を行なった。メイズを束ねて山をつくり乾燥させる作業が順調に行なわれていた。この訪問が私の帰国前の最後の訪問である。メンバーらによれば二つの畑を合わせて、50キロのメイズ袋が50以上はできるのではないかとという予測をたてているが、若干それは、オーバーな数ではないかと考えている。いずれにせよ畑作りも作業が順調に進んでいることに間違いはない。帰国国際に、今後このメイズ畑をどうして行くか話があった際、メンバーはこの畑を私が残して行く物として必ず成功させると約束してくれた。また、このプロジェクトをさらに拡大して行きたいという野心も伺った。私は、彼らのそう言った言葉が非常に嬉しかった。現在、私の後任が既に赴任しており、メンバーと共にこの畑プロジェクトを盛り上げていくことを期待している。

3. 栄養講座

2006年11月、私はプロジェクトの一環として栄養士隊員を招き、メンバーに対して栄養講座を開催した。内容は栄養に関する知識の習得と効果的な料理方法の実践である。参加者は女性メンバー15名と男性6名であった。また、この時、病院関係者

と農業局からも 1 名を招待した。

栄養は、タンパク質、カルシウムなど栄養の 6 大要素について、調理実習は、地元で採れるものを使ってというコンセプトのもとアイリッシュポテトを使った調理を行なった。いずれも好評を博したが、料理であるから自然なことかも知れないが、この時女性の参加が多く得られて、みんなでわいわいとおしゃべりしながら講座を実施できたことが私には一番嬉しかった。



▲栄養講座の様子

4. 最後に

私の申し出に対して、多大なるご支援を頂きましたことをお礼申し上げます。今回の支援を通じて私も多くのことを学ばせていただきました。プロジェクトの計画の作り方や進め方。どうしたらメンバーに動いて貰えるかなど、いろいろと考えることが多くあり、文化、教育の背景、各自がもつプロジェクトへの期待の違いの中で、どう自分が振る舞い活動していくべきか常に意識することを要求されました。一番重要だけれども一番難しかったのは、メンバーを信頼することだったように思います。彼らが買ったメイズの種をきちんと植えるのか、肥料を与えることができるのか、みんな集まるのかということが常に心配でした。しかし、それらのことは杞憂にすぎませんでした。彼らが実際にそれぞれの作業を成し遂げ、最後に私に対して、ありがとうと言ってくれたときは、もっと信頼してやってくればよかったと後悔したりもしました。いろいろな葛藤の中で進めてきたプロジェクトでしたが、メンバーの「このプロジェクトを拡大して行きたい」という彼の意欲に触れ、私は本当に嬉しかったです。私ができる最後の仕事として、私は村の農業局長に安く肥料を貰えるよう手配してもらうために手紙を書きました。返事をもらうことができずには私は帰国しましたが、村全体を巻き込んでこのプロジェクトがさらに拡大して行くことを願ってやみません。ご支援ありがとうございました。

リポート 草津ローターアクトクラブからの寄付活用報告

日本マラウイ協会は、滋賀県の草津ローターアクトクラブから、同クラブが本年 2 月に行ったマラウイ支援を目的としたチャリティコンサートの収益金 72,095 円の寄付先探しを依頼された。JICA マラウイ事務所へ依頼したところ、平成 17 年度 1 次隊の内山麻希隊員 (エイズ対策、ティコレラネコ・エイズ対策事務所配属、任地：エンバンゲニ) の孤児支援プログラムを推薦され、同クラブから直接、同隊員へ送金した。今般、同隊員が本年 7 月に任期終了し、活動報告書が提出されたので、その要約を掲載する。

平成 17 年度 1 次隊 エイズ対策 内山麻希

1. 活動計画

草津ローターアクトクラブからの寄付金を利用して、4 月 10 日より孤児支援プログラムの新たなプロジェクトサイト選定のため、原則週 2 回 (火・木) プログラムを実施することにしました。

2. 活動概要

(1) 孤児支援プログラムについて

2006 年 9 月より活動の一環として同僚と共に開始したプログラムです。Study for Food と題し、小学校に入る前の子供を対象に「ご飯を食べさせるから勉強しなさい」というキャッチフレーズの中

と、現在まで週 1 回各村で実施してきました。このプログラムは、同僚が簡単な英語を子供たちに教え、その後、昼食を提供するというものです。エイズ孤児を対象としていますが、エイズ孤児と他の子供を区別することは差別につながるという地元の人達の意見により、あえて子供たちを区別せずにこのプログラムを実施しております。このプログラムの資金は、配属先が製作しているポストカードとカバンの収益金で賄われております。



▲昼食の牛肉、ご飯、葉っぱ
▲英語で数字を読み上げている場面

このプログラムを実施する目的は 2 点あります。1 点目は、昼食を提供することで、家事の手伝いをするために勉強の機会があまりない子供たちを呼び寄せることができることです。子供の昼食が一回分厚くということは、家計の節約につながり、親は家事の手伝いを中止してもこのプログラムに子供を参加させる傾向があります。よって普段は家事の手伝いで忙しい子供にも勉強の機会を提供することができます。

2 点目は、子供たちの栄養改善をすることです。通常の食事で、タンパク質の摂取量が少ないので、このプログラムでは、牛乳と肉を提供しています。マラウイの農村部では、肉・牛乳・白米はご馳走とされ、クリスマスなどの特別な日ではないと食べられないのが現状です。さらに、たまには美味しいものをいっぱい食べさせてあげたいという同僚の配慮もあり、このプログラムでは白米・牛肉・ミルクティーを昼食として子供たちに提供しております。

(2) 実施概要

約半年続けてきたプログラムで、新しい村を選定するために、寄付金を利用して通常ではない日程でプログラムを実施しました。プログラムを 1 回実施するにあたっての予算は 3000MK としました。内訳は以下の通りです。

項目	単価	数量	計 (MK)
牛肉	300MK/KG	4KG	1200MK
米	100MK/KG	7KG	700MK
塩	30MK	1 袋	30MK
料理油	200MK	1 本	200MK
砂糖	100MK	2 袋	200MK
トマト	50MK	2 山	100MK
玉ねぎ	50MK	2 山	100MK
葉っぱ	5MK	5 束	25MK
紅茶の葉	215MK	1 バック	215MK
牛乳	100MK	2 バック	200MK
石鹸	30MK	1 個	30MK
		合計	3000MK

1 回のプログラムにつき、平均して約 25 名から 35 名の子供たちが集まりました。11ヶ所の村で 2 回ずつプログラムを実施しました。実施した村は以下の通りです。

- ① ヨナム村
- ② マジャマラ村
- ③ チブータ村
- ④ チンブーサ村
- ⑤ チャブーリア村
- ⑥ カビラ村
- ⑦ カセーカ村
- ⑧ カマンガダージ村
- ⑨ ベトロスモヨ村
- ⑩ カバサ村
- ⑪ ムベンカ村

今後、①から⑤までの村を孤児支援プログラムの実施村とする予定です。相対的にやる気があったことが選定のポイントとなりました。この判断は、住民からの信頼が厚い同僚と各村の村長が話し合いによって決められました。以前までは、⑥の村でもプログラムを実施していたのですが、今回の選定より外すことにしました。

3. 受益者の声

- 「ご飯とお肉がとっても美味しい。お腹が空いていたから全部食べられた。」(5 歳男子・ヨナム村)
- 「ご飯を半分残して、お家で待っているお兄ちゃんにも分けてあげるんだ。」(4 歳女子・チブータ村)

- 「子供にご飯を食べさせてくれてありがとう。」(4 歳男子の母親・チブータ村)
- 「数字を英語で言えるようになった。」(5 歳男子・マジャマラ村)
- 「毎日が楽しい。みんなとご飯を食べれる日はもっと楽しいよ。」(5 歳女子・チンブーサ村)

4. 私見

農村部で暮らす多くの子供たちは、朝食を食べないようです。そのため、プログラムで提供する昼食を子供たちはあっという間にたいらげてしまいます。お茶碗 2 膳分はあるであろうご飯を美味しそうに全部食べ、また、その姿はとても愛くるしいものです。新たなプロジェクト村の選定のためとはいえ、今まではプログラムを実施していなかった村でも 2 回ずつ実施することができ、子供たちにとってはクリスマスがいきなり 2 回も来たようなものだったと思います。

このプログラムは、私の配属先の人達が働いて得た収益金で、自分たちの村の子供たちを手助けするという姿勢を基本としたものです。今回、寄付金を利用して選定して決めた 5 村において、これからは今までと同じように自分たちで得た収益金で継続的にこのプログラムを実施していきます。ポストカードとカバンが売れ続ける限り、プログラムが実施できると考えております。また、収益金に余裕ができた場合は、学費を払えない子供たちに対して学費を支援することも計画しております。

最後になりましたが、草津ローターアクトクラブの方々にはティコレラネコ・エイズ対策事務所に寄付していただき心から感謝しております。皆様、遠いアフリカの、しかもマラウイという小さな国のことを思いやってくださったおかげで、計 300 人以上の子供たちが幸せになることができました。本当にありがとうございました。

投稿 3 度目のマラウイ赴任

シニア海外ボランティア 医療機器保守 小林 一之

私は、青年海外協力隊のマラウイ隊員 OB (63/3、医療機器) であり、マラウイの協力隊調整員 (平成 3 年~6 年、現在のボランティア調整員) の OB でもある。そういう経緯があるので、この度の赴任は、不安よりも懐かしさが大きく、また最後にマラウイを去ってから 13 年近くが経過し、この国がどのように変貌を遂げているのか、または何も変わっていないのか、楽しみでもあった。

3 月 27 日、首都リロングウェの空港に到着した時は、初めてこの地を訪れた 18 年前と同じように、抜けるような青い空、どこまでも見える遠い黄色いアカシアのような花、真っ赤で大きなポインセチアなど、きれいな花々が迎えてくれた。到着時は雨季の終わりの季節で、特に緑が素晴らしく鮮やかだった。

首都リロングウェは、旧市街オールドタウンと官庁などが集まるシティセンターに二分される。商店 (主としてインド人が経営している) やオープンマーケットはオールドタウンに多い。赴任しての印象としては、新しいスーパーや商店、建物ができている割に街の様子、雰囲気はあまり変わっておらず、発展したとは思えない。これはオールドタウンもシティセンターも同様である。殆ど変化のない街並みの懐かしさと、数十年経過しても発展していかない悲しさ、もどかしさを同時に感じる。

一方、南部ブランタイアの街は、昔ながらのゆったりとした趣を残しながらも新しいビルやお店が多く、リロングウェよりも進んでいるような印象を受ける。

スーパーマーケットは、以前はバンダ大統領率いる 2 大スーパー [KANDODO]、及び [PTC] だけであったが、現在はオールドタウンに [SHOPRITE] (ショッピング) という大きなスーパーマーケットができています。[KANDODO] は殆どなくなり、[PTC] は [Peoples] と変名したらしい。この [SHOPRITE]

は南アフリカからの輸入品が殆どで、日用雑貨品、輸入食品などは我々外国人にとっても高価である。日本よりも高いものがいくつでもあって、値段を見て買うのをやめたことも一度や二度ではない。それでも買物に来るマラウイ人が結構いるのに驚かされる。中には自家用車に乗って、である。

ブランドのクイーンエリザベス中央病院の近くに「GAME」という大型店があり、リビングウェアでは入手できない質の良い電化製品等が購入でき、またリビングウェア同様「SHOPRITE」もある。

レートの変動により、日本へのポストカードは昔は 50 タンバラ (0.5MK) だったのが、今は 80 クワチャ、カールスバーグのビール (333ml) は昔 1 クワチャ程度だったのが今は 65 クワチャである。1 米ドルが約 140 クワチャなので、生活費を米ドルで支給される外国人にとってはあまり実質的な痛みはないが、現地の (特に現金収入の少ない田舎の) 人たちにとっては、状況は悪化していると感じる。

オープンマーケットでは、野菜の種類が増え立派な野菜や果物が売られている。色艶のいい大きなナスビ、値段は高いがレタス、カリフラワーやブロッコリーなど、以前はなかなか見られないものであった。台湾農耕隊や日本の協力隊が野菜の分野でも協力をおこなってきたが、少しでもその成果が現れているのであれば嬉しいことである。それでも田舎に行けば、小さなタマネギとジャガイモとトマトくらいしかないのかもしれない。

ファーストフードのお店も増えた。ハンバーガーやフライドチキン、ピザなどが、お店でも食べられるシテイクアウトも可能であるが、350 クワチャ～800 クワチャとかなり高価である。日本と比較しても高いものもあり、それでも現地の人たちが並んで買っているのを見ると、ちょっと不思議な違和感を

覚えてしまう。

マラウイ人が所有する自家用車が増え、渋滞が当たり前になった。自転車が増えた。公共交通機関は、圧倒的にミニバスが多くなった。街では裸足の人が減り、服装も奇麗になった。街中で遊ぶ子供たちが減り、就学率が高くなった。携帯電話を所有する人が多くなり、ゴミが増えた。人口は 18 年前の 800 万人から 1,200 万人に増えている。その反面、カメレオンは減った。一見豊かになりつつあるように思うが、田舎は殆ど変わっていないようだ。所得格差は進んでいる。日用品は高くなり、しかし「持ち手」は車でも最新の電化製品でも何でも入手できる環境になり、「持たざる者」はいつまでも叶わない。一部のお金持ちや他の国の人ためにマラウイがあるような、そんなやせなさを感じてしまう。

心なしか、人の歩くのが早くなったような気がする。マラウイも都市化するに連れてイラチ (大阪の言葉でせっかちの意) になり、人の歩く速度が早くなっていくのだろうか。だが、もちろん、やさしさがなくなったとは思わない。いつでもどこでも挨拶して、何か尋ねれば親切に教えてくれる。いつまでも失くして欲しくないもの、それは、抜けるような青い空、ソンバヤケーブマクレーアを見た満天の星、そしてマラウイの温かい心、「Malawi, The Warm Heart of Africa.」である。

お礼

「世界の笑顔のために」 プログラムご協力御礼

平成 3 年度 3 次隊 栄養士 中川 総

今回、国際協力機構 (JICA) 市民参加プロジェクトの一環である「世界の笑顔のために」というプログラムを利用し、マラウイで活動中の突生川隊員よ

り要請をあげて頂いた「ドマシの学生へ剣道の竹刀 40 本を贈るプロジェクト」への発送手続きが無事終了しました。今年 4 月にお送りした総会案内に同封した呼びかけのチラシをご覧いただいたマラウイ協会会員の皆様、そして私の通う剣道場の皆様から、目標 8 万円に対し、92,357 円のお金が集まりました。御協力して下さった皆様、本当に有難うございました。余剰金は責任を持ってマラウイ剣道の為に活用させていただきます。

「世界の笑顔のために」プログラムは開発途上国で必要とされている教育、福祉、スポーツ、文化などの関連物品について、ご提供くださる方々を日本国内で募集し、JICA が派遣中の青年海外協力隊員らを通じ、世界各地へ届ける、つまり、「途上国の人々のために、日本でできるボランティア」というものです (※東京から要請国までの輸送費、手間などを JICA が負担してきます)。古いけど状態の良い楽器、絵本、スポーツ用品、玩具など、途上国の方に再び使って欲しいものを寄贈してみたいかたがでしょうか？ 詳細は JICA のホームページ

<http://www.jica.go.jp/partner/smile/index.html> をご覧下さい。



▲ ドマシ教員養成学校の生徒達と突生川隊員

日本マラウイ協会 主な活動内容 (平成 19 年 3 月～平成 19 年 8 月)

- ① [3月28日] 機関紙 KWACHA 第 37 号発行
- ② [4月21・22日] 協力隊まつり出展 於：JICA 地球ひろば (1面の記事参照)
- ③ [5月12日] 第 25 回通常総会 於：JICA 地球ひろば (1面の記事参照)
- ④ [7月7日] 国情セミナー・シマを食べる会 於：JICA 地球ひろば (1・2面の記事参照)

最近のマラウイ関係テレビ・ラジオ番組 / 記事

- | | |
|---|---|
| <p>2007.6.24 NHKBS1 22:10～23:00 (一部約 4 分)
① 「新 BS ディベート」 どうする日本の ODA ～政府開発援助のゆくえ～ブランドタイアで取材した「一村一品」プロジェクトの模様を紹介</p> <p>2007.7.22 TBS ラジオ 21:00～21:54
② 「ファクトリー、アフリカ・マラウイを訪ねて」～EIS 問題を取材した記者レポート。山田耕平 OB 出演～</p> <p>2007.8.12 読売新聞朝刊 30 面「人物語」オモシロ科学国境なし～長谷宏司 OB (シニア隊員) の実験番組「サイエンスマン」紹介～</p> | <p>2007.8.21 毎日新聞朝刊 2 面「ひと」
④ 長谷宏司 OB (シニア隊員) の実験番組「サイエンスマン」紹介</p> <p>2007.8.30 毎日新聞朝刊 25 面
⑤ 「アフリカ貧困地に生きる先進国の人々」～作家 曾野綾子さんに聞く～</p> <p>2007.8.26 放送大学 11:45～12:00 他再放送あり
⑥ (一部 9 分) 「大学の窓」～放送大学大学院で学ぶ 葛木きぬ子 OG(H1-1) の紹介～</p> <p>2007.9.3 毎日新聞朝刊 10 面「ノートから」
⑦ マラウイで確認した他者が見いだす文化</p> |
|---|---|



日本マラウイ協会情報



■ KWACHA バックナンバー

当会は今年 2 月 26 日に創立 24 周年を迎えましたが、創立時の機関紙 KWACHA 第 1 号から第 38 号 (今号) までの全バックナンバーを PDF ファイル化し、当会ホームページに掲載しています。是非ご覧下さい。
URL : <http://www.joca.or.jp/malaw/malawi-j.htm> から「日本語」を選択、左端のメニューから「機関紙 KWACHA」をクリックすると、右ページに号数一覧が出てきますので、希望の号数をクリックしてください。

■ 日本マラウイ協会の刊行物

- (1) チェワ語辞典 統合改訂版 (2000 年 7 月発行)
B5 版 186 ページ 1 部 1,500 円 (送料 290 円)
- (2) マラウイ旅行ガイド 新訂第 2 版 (97 年 7 月発行)
「アフリカの暖かき心、湖とサバンナの大地へ」
B5 版 108 ページ 1 部 1,200 円 (送料 210 円)
- (3) 国情紹介誌「Malawi - The Warm Heart of Africa」
第 2 版 (94 年 7 月発行)
A4 版 40 ページ 1 部 1,000 円 (送料 210 円)

送料は「ゆうメール (旧冊子小包郵便物) 扱いで表示しています。複数種を 1 冊づつご注文の場合は次のとおりです。

- (1)+(2) = 340 円 ■ (2)+(3) = 290 円
■ (1)+(3) = 340 円 ■ (1)+(2)+(3) = 340 円

各書ご希望の方は、本ページ最後の入会方法の欄に記載の「ゆうちょ銀行・振替口座」または「三菱東京 UFJ 銀行・普通口座」宛に、代金および送料をお送りください。その際、ゆうちょ銀行・振替口座宛の場合は振替用紙の通信欄に必ず「xxxx xx 冊希望」と明記してください。「三菱東京 UFJ 銀行・普通口座」宛振込の場合は事前に必ず E-mail、あるいは電話/FAX で「xxxx xx 冊希望」と当会宛連絡してください。

■ ご意見、ご質問をどうぞ

日本マラウイ協会に対するご意見、ご要望、ご質問などありましたら、下記当協会宛へご遠慮なくお寄せください。また、電子メールによるマラウイ関連情報の配信も行っておりますので、電子メールアドレスをお持ちで、ご希望の方は、あわせてご連絡ください。

■ 日本マラウイ協会 月次定例会

日本マラウイ協会では、原則毎月第 3 水曜日 18:30 ～に、東京都内 (通常は JICA 広尾 地球ひろば 会議室) で、月次定例会を開催し、マラウイ関連の支援活動などについての討議や、マラウイ関係者間の情報交換などを行っております。参加は会員でなくても構いません。初めての方も大歓迎です。詳しくは当協会までお問い合わせください。

■ 日本マラウイ協会 入会方法

ご連絡いただければ入会申込書をお送りしますので、各項記入の上ご返送ください。E-Mail で入会希望の旨を連絡くださっても構いません。また、入会金と年会費の合計 (個人正会員の場合 1,000 円 + 3,000 円 = 4,000 円) を下記のいずれかの銀行口座宛へお送りください。(ゆうちょ銀行・振替口座宛が安く便利です)

〒150-0012 東京都渋谷区広尾 4-2-24 青年海外協力協会気付
日本マラウイ協会
TEL: 03-3447-2921 FAX: 03-5798-4269
E-mail: japan-malawi@mc.newweb.ne.jp

三菱東京 UFJ 銀行 東恵比寿支店 普通口座 255739
口座名義人 日本マラウイ協会事務局 貝塚光宗
ゆうちょ銀行・振替口座 00190-7-13125、加入者名 日本マラウイ協会

また、協会規約その他についても上記宛お問い合わせください。